

【みなぽっけ帯広】 支援プログラム

【法人理念】:「あなた」らしさを大切に認め合える場

【作成年月日】:令和6年9月1日

【営業時間】:9:00~18:00(月~金)

【送迎実施の有無】:有

【支援方針】

一人ひとりの子どもたちの「個性の芽」。
「好き・得意」を大きく、
「嫌い・苦手」は可能な限り小さく、
スタッフ一同連携し、発達の方向性や伸長を
促します。



◆人間関係・社会性◆

- ねらい
 - 他者との関わり(人間関係)の形成
 - 自己の理解と行動の調整
 - 仲間づくりと集団への参加
- 支援内容
 - 運動遊び・自由遊び
- 支援プログラム
 - 戦いごっこ・カードゲーム・ボードゲーム
 - お買い物ごっこ

◆言語・コミュニケーション◆

- ねらい
 - 言語の形成と活用
 - 言語の受容及び表出
 - コミュニケーションの基礎的能力の向上
 - コミュニケーション手段の選択と活用
- 支援内容
 - 運動遊び・自由遊び
- 支援プログラム
 - 鬼ごっこ・追いかけてっこ・ボール遊び
 - 工作など・お買い物ごっこ

◆健康・生活◆

- ねらい
 - 健康状態の維持・改善
 - 生活リズムや生活習慣の形成
 - 基本的な生活スキルの獲得
- 支援内容
 - 健康状態の把握
 - 生活リズムの安定
 - 基本的な生活スキルの獲得

3. 支援プログラム(具体例)

- ・到着時、毎回体温測定や口頭での質問により、健康状態の確認をする。
- ・定期的かつ定時に通所することで、生活リズムの安定に努める。
- ・身のまわりを清潔にし、食事、衣類の着脱、排泄等の生活に必要な基本的技能を獲得できるようにする。
- ・生活の中で、障害の特性に配慮しながら、様々な遊びを通して学習できるような環境を整える。

◆運動・感覚◆

- ねらい
 - 姿勢と運動・動作の向上
 - 姿勢と運動・動作の補助的手段の活用
 - 保有する感覚の総合的な活用
- 支援内容
 - 運動遊び・自由遊び
- 支援プログラム
 - ボールプール・サイバーホイール
 - ボルダリング・鬼ごっこ・追いかけてっこ
 - ボール遊び・戦いごっこ
 - 工作など・プラモデル作り・アイロンビーズ

◆認知・行動◆

- ねらい
 - 認知の発達と行動の習得
 - 空間・時間・数等の概念形成の習得
 - 対象や外部環境の適切な認知と行動の習得
- 支援内容
 - 運動遊び・自由遊び
- 支援プログラム
 - ボルダリング・鬼ごっこ・追いかけてっこ・戦いごっこ
 - 工作など・カードゲーム・ボードゲーム
 - プラモデル作り・お買い物ごっこ・アイロンビーズ



【家族支援】

・個別面談や連絡ノートのやりとり等で、子どものライフステージごとに異なる様々な悩みや不安に寄り添い、子ども本人のみならず、保護者やきょうだいを含めた、家族全体を支援していく視点で、家族支援を推進していきます。

【移行支援】

・年齢に応じた支援

学齢が低い子においては、発達の土台・基礎部分を満たすための体作り、個々の自分発見、自分づくりや生活スキルの定着に重きを置き、学齢が上がるにつれ、言語やコミュニケーション力を身につけ、集中力や社会性の獲得、自分の状態や要望を他者に伝えることに重きを置き、支援を年齢に応じて変化させていきます。

異年齢の仲間集団を活かすため、個々が大事にされ育つ姿や、大きくなる姿を子どもたちが当たり前と感じとれる集団作りも大事にします。

・児童発達支援事業

日常の社会生活に必要な「動き方」や「人との接し方」を、遊びやコミュニケーションを通じて学んでいきます。

・放課後等デイサービス

放課後の時間を活用して、発達のサポートを行います。遊びを通じて「自分の興味」や「得意」と出会っていきます。

【地域支援・地域連携】

・学校や幼稚園、保育所等への訪問支援(保育所等訪問支援事業)

学校や幼稚園、保育所等の先生たちへのサポートとして、「子どもたちの発達支援」の観点の共有や連携を通じて、お子様の「得意」と「苦手」を共有し、学校や幼稚園、保育所等で「自分らしさ」を保ちながら活動できる内容を一緒に検討します。

【職員の質の向上】

・職員に対して定期的な研修や勉強会を実施し、専門知識やスキルの向上に取り組みます。また、職員間のコミュニケーションを円滑にし、協力体制を強化することで、サービスの質を向上します。

・ガイドラインに基づき、自己評価や保護者評価を定期的に行い、サービスの質を客観的に見直します。

【主な行事等】

・夏祭り(縁日)、ハロウィン、クリスマス会、節分、おやつのお買い物など

みなぽっけ帯広の支援について

みなぽっけ帯広では、お子様一人ひとりの発達や障がいの状況に合わせて、身体と心の成長を促し、運動機能をはじめ集中力を育む、運動遊び・自由遊びを中心とした運動療育を行います。

保護者の方と相談し、一人ひとりの成長に寄り添った療育プログラムを組むため、「集中力がない」、「運動が苦手」、「筋力や体力に不安がある」というお子様でも安心して頂けます。

ストレスを受けた時に分泌されるコルチゾールというホルモンは、脳機能に悪影響を及ぼすと言われています。運動遊びで身体を動かし適度にストレスを発散することで、ストレスの慢性化を防ぎ、お子様の健全な発育をサポートしていきます。

お子様の集中力が保てるよう、また療育を受けているという感覚がしないよう、遊びの中でごく自然な形で短時間のプログラムが組み込まれているので、楽しくのびのびとした時間を過ごして頂けます。

ボールプール・サイバーホイール・ボルダリングなど充実した大型遊具を使用し、床材も軟らかく安全面も安心です。楽しく遊びながら身体を鍛える事ができます。

あたり前の生活があたり前に実現できる、そんな暮らしのお手伝いをさせていただきます。専門性だけにとらわれず、お互いが人として心と心の繋がりを持てるようなサービスを提供します。



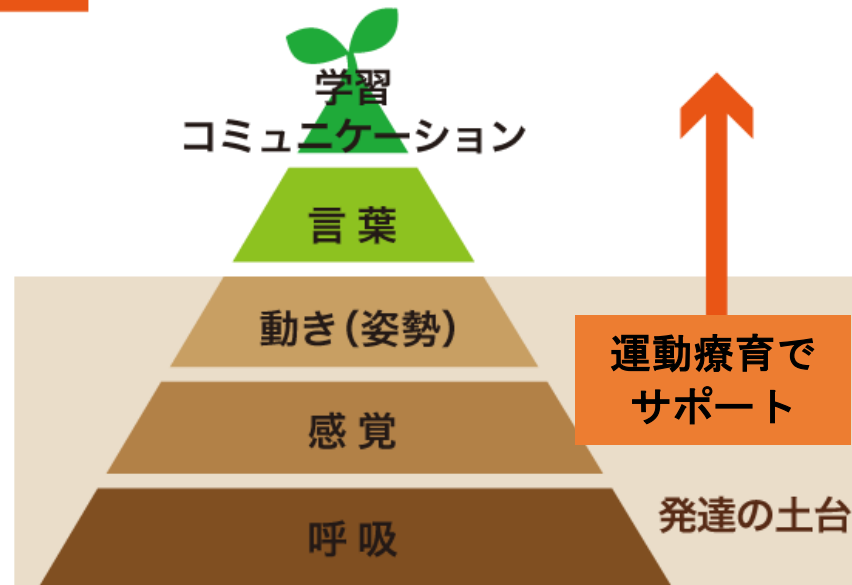
運動療育について

運動療育を行うと、すぐに集中力や社会性が身につくと考える方が多いですが、発達の未熟な子どもにはとても難しいことです。

発達にはプロセスがあり、言語やコミュニケーション力といった発達は、呼吸、感覚、動作という基礎的部分ができてから獲得されます。

呼吸がしっかりとできていなかったり、まだ身体感覚を統合しようとしている子どもは、急に泣いたり、大きな声を出したり、回ったり、跳ねたりします。

発達のピラミッド



これは、発達の土台・基礎部分を満たすために、身体が欲求し自然に行っていることなので、抑制せずやり切らせることが発達の近道です。

しかし、指導をする側が運動療育はこうあるべきという思い込みや、マニュアルを子どもに強要すると、いつまでたっても言語やコミュニケーションの発達を得られないどころか、発達に欠かせない運動を嫌ってしまう子どもを作ってしまいます。

みなぼっけ帯広では、こういった問題を解決し、子ども達の行動を理解し発達させていくために、ごく自然な形で楽しく遊びながら、身体と心の成長を促す運動療育(運動遊び・自由遊び)を行っています。

これにより、発達の基礎部分が構築され、言語やコミュニケーション力が身につき、集中力や社会性の獲得に繋がります。

運動遊びについて

運動遊びとは、主に体を使った遊びのことを言います。鬼ごっこやかくれんぼ、じゃれあい、戦いごっこ、ボール遊びやなわとびなども、一般的に運動遊びと呼ばれます。一人で遊ぶことも出来れば、二人またはそれ以上で楽しむことも出来るのが運動遊びです。運動遊びは、子どもが健康かつ快適に生きていくために、とても大切な役割を持っています。

みなぽっけ帯広では、運動遊びを通じて体の動かし方、力のコントロールのしかた、コミュニケーション力、集中力、社会性・協調性、自己肯定感などを、身につけていくことが大切だと考えます。

運動技術の習得が目的ではなく、基本的な力をつけて、体を動かすのが好きになるのが目的なので、強制や無理強い、教え込みや一方的な指導もありません。

子ども達が自ら進んで取り組める環境を整え、小さな成功体験をたくさん経験して、動く楽しさを知ってもらうための運動遊びです。子ども達でルールを作り、新たな遊びを生み出すこともあり、遊びの中で発想力も養われます。

「あれはダメ！これはダメ！どうして出来ないの！」ばかりだと、子どもも行き詰ってしまいます。運動遊びで適度にストレスを発散させ、子どもの健全な発育をサポートします。

自由遊びについて

運動遊びなどの大きく体を動かす粗大運動が発達した後に、絵を描く、工作をするなどの手や指を使った細かい動作を必要とする微細運動が発達していきます。

みなぽっけ帯広の自由遊びとは、主に工作、塗り絵・写し絵、読書、トランプやUNOなどのカードゲームやボードゲーム、プラモデル作り、アイロンビーズなどの静かな遊びのことで、微細運動の発達をサポートします。

カードゲームやボードゲームは、論理的思考力、記憶力、表現力、想像力、判断力、手指の器用さ、相手の考えを推論する力、心理的駆け引き力、ルールとは何かを理解する力などが身に付くと言われており、近年はカードゲームやボードゲームの教育価値が注目を集めるようになっています。

子どもの遊びについて

現在とひと昔前の環境や世の中の変化は、子どもに本来生じるはずの欲求が満たされず、どんどん置き去りにされ、意味のある経験・行動が行えないまま成長してしまい、発達に支障をきたしてしまうことも考えられます。

ひと昔前の子供たちは、近所の公園で鬼ごっこやかくれんぼ、木登りなどを子ども達だけで遊んでいました。その中で、熱中したり、喜んだり、年上の子は年下の子の面倒を見たり、年下の子は年上の子に甘えたり、あるいはケガをしてしまったりという失敗もしながら、体力や創造性、判断力、社会性などを育てていました。

子どもは遊びにおいて体を使い、さまざまな経験をしていきます。体を使うためには、脳を働かせ思考を繰り返しながら、知恵を獲得していきます。子どもの遊びは全て意味のある学びです。

一見、意味のないような行動すら、全て学びにつながります。意味のないような動きこそ、子どもの潜在的な欲求により、内発的に起こる必要な刺激を獲得するための、重要な行動と言えます。

現在とひと昔前の比較

	現在		ひと昔前
生活環境	家族のみ 家が手狭 十分にできない	子育て 住宅環境 ハイハイ等の学び	社会全体 家中で遊べた しっかりできた
子育て	周りに気をつかいながら	騒ぎ声 足音 鳴き声	周りの理解があった
遊び	危険だからと遊具を撤去 ごく限られた者で集まる 社会性が育たない	公園 友達 ルール	感覚を刺激する遊具 色々な年代で一緒に遊ぶ 社会性が身に付く

運動遊び・自由遊びと5領域とのつながり

～運動遊び・自由遊びで身につくこと～

ボールプール … 全身の感覚を刺激！運動能力も自然に向上！



◆運動・感覚◆

- ・普段味わうことのない独特の感覚を全身に受け、子どもの感覚を刺激する。
- ・動きが不自由になって、いつもと違う動きをしたり、違う筋肉を使ったりすることになり、運動神経を鍛える。
- ・ボールをつかむ、投げる、とる、かきわける、かき集める、飛び込む、もぐるなど、自然と沢山の動作をしている。
- ・ボールプールのふちをジャンプしたり、走りまわったり、バランスをとろうとすることで、体幹、平衡感覚や筋力、集中力なども鍛えられる。

サイバーホイール … 安全に360度回転！全身を動かそう！



◆運動・感覚◆

- ・適度な弾力の壁にしっかりと守られた空間の中で、でんぐり返しをしたり、ぶつかったり、転がしたり、全身をつかって自在な動きができる。
- ・バランスをとろうとすることで、平衡感覚や筋力、集中力なども鍛えられる。

ボルダリング …… 体力面、知力面、両方伸ばそう！



◆運動・感覚◆

- ・腕と指の筋力が向上する。
- ・足の筋力と股関節の柔軟性が高まる。
- ・背中の筋力と肩の動作範囲が向上する。
- ・強くブレない体幹になる。
- ・全身に均等に筋肉がついてしなやかな動作ができるようになる。

◆認知・行動◆

- ・集中力が身につく。
- ・思考力・計画力が向上する。
- ・判断力、問題解決力、忍耐力が養われる。
- ・あらかじめイメージした計画に基づいて論理的に行動する力が養われる。

鬼ごっこ・追いかけっこ …… 運動面、知力面の発達にふさわしい運動遊び！



◆運動・感覚◆

- ・全力で走るのので、走力が向上する。
- ・倒れないように体をコントロールするので、体幹やバランスが向上する。
- ・相手がどう動くかを観察しながら追いかけたり逃げたりするので、ステップワークが身につく。

◆認知・行動◆

- ・全体を見渡し、どのように動けばよいか自身で判断する力を養うので、判断力が身につく。
- ・ルールを理解してこどうするので、知力が向上する。

◆言語・コミュニケーション◆

- ・協力をしたり作戦をたてるなど、友達とのコミュニケーションをとることが大事になる。

ボール遊び … 様々な動きを経験できる！



◆運動・感覚◆

- ・投げる、捕る、転がす、蹴る、突くなど多様な動きを引き出す。
- ・反射神経が身につく。
- ・距離感覚、方向感覚を養う。(空間認識能力)

◆言語・コミュニケーション◆

- ・協力をしたり作戦をたてるなど、友達とのコミュニケーションをとることが大事になる。

戦いごっこ … 子どもの通り道！様々なメリットも！



◆運動・感覚◆

- ・力加減を知り痛みがわかるようになる。

◆認知・行動◆

- ・想像力・創造力を身につけられる。

◆人間関係・社会性◆

- ・友達と協調して遊べるようになる。
- ・正義感があり優しい気持ちをもてる。
- ・戦うことは怪我につながる可能性もあるが、徐々に怪我をさせない、しないための工夫を子供たちは実体験で学ぶ。
- ・キックやパンチをすると相手はとても痛いということや、おなかにキックをしたらとても危険であることなどを身をもって学ぶ。

工作など …… 子どもの想像力や集中力を養おう！



◆運動・感覚◆

・書く、塗る、切る、描く、折るなど様々な動作が身につく。

◆認知・行動◆

・何かを作る楽しさを味わえる。

・集中力が高まる。

・成功体験や達成感を味わえる。

◆言語・コミュニケーション◆

・わからないことを周りに聞いたり、教えてもらったり、コミュニケーション力が向上する。

カードゲーム・ボードゲーム …… 遊びながら様々な力が身につく！



◆認知・行動◆

・記憶力、思考力、想像力を育てる。

・知的好奇心を満たし、達成感を覚えられる。

・達成感の積み重ねが「自己肯定感」を育む。

・ルールを知ることは、言葉や数の理解、順番や勝敗の理解につながる。

◆言語・コミュニケーション◆

・ルールの中で動くことは、先の見通しを持って動いたり、他者の視点を想像することにもつながる。

◆人間関係・社会性◆

・忍耐力、ルールやマナーの遵守、コミュニケーション能力などの社会性を育む。

・ルールから自由になる(自分達でルールを作る)ことは、他者との合意形成や、臨機応変に対応することにつながる。

プラモデル作り …… 療育にもつながる様々な効果がある！



◆運動・感覚◆…空間認識能力、手指の発達、固有受容覚の向上。

- ・平面(2D)の説明書を見ながら、立体(3D)の部品を組み立て、立体的な完成品を作る作業なので、脳の中でイメージを膨らませる必要があり、自然に空間認識能力が向上する。
- ・平面⇄立体を脳内で変換し、上下、左右、表裏などの向きを考え、回転させたりしながら説明書と同じ状態を探すのは、とても大変で頭も使うので、脳機能が鍛えられる。
- ・微細な指先の動作や工具の使用を通じて、感覚、運動機能の発達にも良いという副次的効果があり、指先を動かすと、脳に刺激が与えられ、思考力などが発達する。
- ・固有受容覚とは、自分の身体がどんなふうに動いているのか、どの位置にあるのかを教えてくれたり、力加減に関わる感覚のことで、脳の目覚めの状態や気持ちのコントロールにも関わっている。
- ・組み立ての工程は、頭、体、腰、腕、足などの部位ごとに作るので、それぞれの位置や関節の動きなど、自分の身体と重ねることで、ボディイメージが出来るようになり、自分の身体を思い通りに動かす力の基盤となる。

◆認知・行動◆…集中力や記憶力の向上、読解力や理解力の向上。

- ・没頭することで、集中力がアップするだけでなく、直前の作業と次の作業を記憶しておく必要もあるので、記憶力向上の効果が期待され、没頭すると、脳の中でドーパミンという脳内物質が分泌され、ストレス解消効果も期待できる。
- ・完成には1~2時間程度の時間を要するが、その間ずっと集中して完成するまでに作業を続けることになるので、長時間集中力を持って、最後までやり抜く力を身につける。また、完成形や作る順番がわかっているので、見通しを持って作業することができる。
- ・コツコツと根気よく作業を積み重ねながら、苦勞して、ようやく完成した時、大きな達成感とともに、1つの成功体験を積めたことになる。
- ・説明書を理解して読み解く必要があるので、自然と読解力や理解力が向上する。
- ・1から順番に、説明書の通りに組み立てれば完成するので、指示通りに順番に物事を処理することを学べる。
- ・失敗しても、パーツを外せばやり直せ、失敗の原因も理解するので、失敗から学び、諦めずにやり抜く力も身につく。
- ・似たような形や大きさの部品もたくさんあるので、間違えないよう観察力や注意力も身につく。
- ・慣れてくると、早く出来上がるように自分なりの効率的な方法を模索するようになるので、論理的思考も身につく。

お買い物ごっこ … お金や数字への関心を引き出し、周りとの交流を楽しむ！



◆認知・行動◆

- ・お店で何かを買う時にはお金を払う、という流れが理解できるようになる。
- ・お金に関する基本的スキルを身につける。
- ・予算を設定することで、簡単な足し算や引き算を実践できる。
- ・予算内で節約する方法や、我慢する大切さなどを学ぶ。

◆言語・コミュニケーション◆

- ・お店側で売る人、買う人、低年齢児の面倒を見る人など、役割分担をして楽しめる。

◆人間関係・社会性◆

- ・「いらっしゃいませ」「これください」「ありがとうございます」など、言葉のやり取りを楽しんだり、低年齢児に優しく接したり関わりを楽しむ。
- ・自分達でお買い物ごっこを進めていく充実感を味わう。

アイロンビーズ … 療育的エッセンスが満載！



◆運動・感覚◆…微細運動による手と目の協応、視空間認知を高める。

- ・アイロンビーズを指やピンセットを使って掴み、ある一カ所に置くという作業は、アイロンビーズを見て、指先を器用に動かしたり力加減をしたりする必要があるため、集中力に加えて手と目のチームワークの力を使う。

- ・図案を見てどこに何個ビーズを並べれば作りたい物が完成するののかというのを考えながら作る。このような認知力が「視空間認知」

◆認知・行動◆…集中力や注意力の向上、想像力や創造力を高める。

- ・小さなビーズを探してプレートのとがった部分にはめていく作業には集中力や注意力が必要。
- ・ビーズを置く際にも並べたビーズが崩れないように注意しなければならない。
- ・ひとたびアイロンビーズに夢中になると、完成させるまで集中力を維持しなければならない。
- ・図案や完成した物の画像を見ながら作るのも、見通しを持って製作を進めていける。完成まであとのくらいか、何をすればいいのかが明確になっているので、ゴールが想像しやすい。また、お手本や図案を見ながらプレートにビーズを置いてキャラクターや動物など基本的に何でも作ることができる。